

日本の美しい自然を 次世代に引き継ぐために

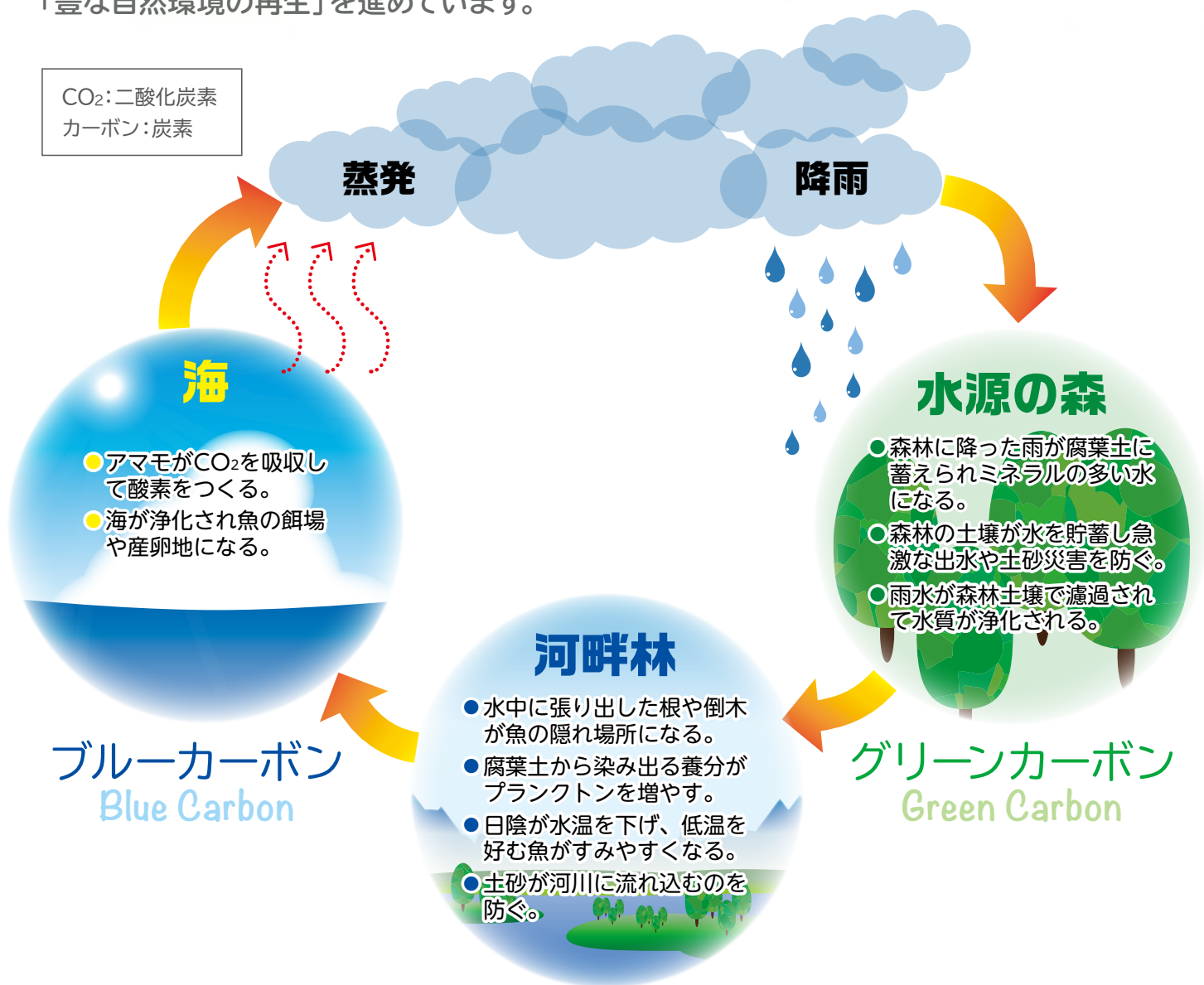
日本の四季折々の美しい自然や貴重な生態系を次世代に受け継いでいくために、様々な団体と協力して保護・保全活動を推進するとともに、自然学校を運営しています。



白鳥川の景観を良くする会(滋賀県)

森林の保護・保全活動「山の森づくり。海の森づくり。」

「山の森」と「海の森」の二つの視点から「CO₂削減」と「豊かな自然環境の再生」を進めています。





「三重セブンの森」森林整備



「宮城セブンの森」シカの食害防止対策

森の保育活動で健全な森づくり

日本は木を植えて木を育て、木を切って使い、また植えるという木を循環させる文化を持っています。木が育つには何十年もかかり、その間の植樹や下刈り、間伐などの保育を人が計画的に行って森を守ってきました。

セブン-イレブン記念財団の「森づくり」の基本的な考え方は、植樹から下刈り・間伐までの森の保育活動を行い、健全な森をつくることです。

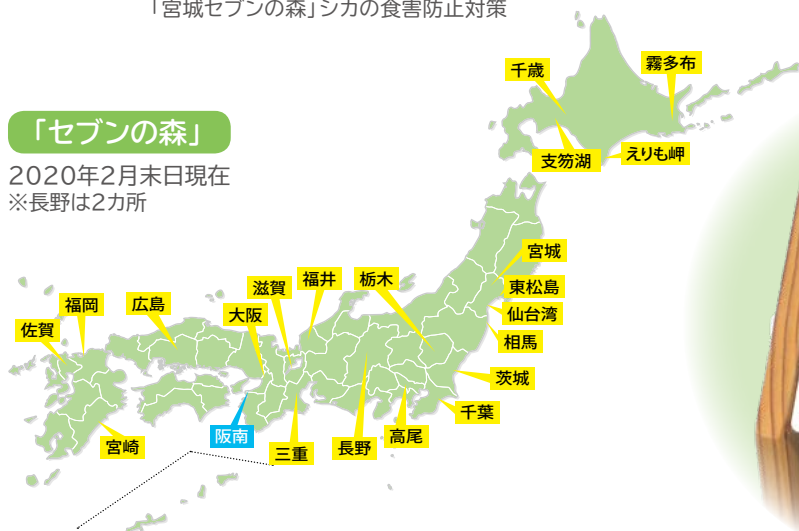
2006年に「支笏湖セブンの森」をスタートさせて以来、全国で「セブンの森」づくりに取り組んでいます。2014年からは、「セブンの森」の間伐材を利用した木製募金箱を店頭に設置し、木材を循環させていくことで森林保全と地球温暖化防止につなげています。



募金箱は宮城県大崎市の障害者就労支援事業所で組み立てています

「セブンの森」

2020年2月末日現在
※長野は2カ所



アマモを増やして海を再生

「海の森づくり」として、水質浄化やCO₂を減らすアマモを増やして豊かな海に再生する活動に取り組んでいます。「ブルーカーボン」は、地球上の生物が固定化する全炭素量の55%を占めており、温室効果ガス削減の切り札とも言われています。

アマモを増やして豊かな海に再生する活動は、セブン-イレブン加盟店や本部社員のボランティアを募り年2回実施しています。東京湾では2011年から「東京湾再生アマモプロジェクト」を開始し、2013年から横浜で「東京湾UMIプロジェクト」に取り組んでいます。大阪湾では、大阪府阪南市で2018年から「阪南セブンの海の森」を開始しました。



アマモの花枝の採集



アマモ

新たな「セブンの森」の展開へ

「セブンの森」は、地域の自然環境やニーズに合わせた植樹を行い、10年後、20年後に桜や紅葉の森にする、というようなランドデザインを作り、長期的な計画を立てて、地域に親しまれ、愛され、次世代に繋げる地域一体型の森づくりを目指しています。

2018年度からは、国有林・公有林に私有林も加え、地域の住民やNPO、行政と連携し、気軽に参加して自然体験や地域交流ができる森づくりを行っています。

「セブンの森」づくりの一覧(全23カ所、うち終了6カ所) 2020年2月末日現在

名 称	場 所	開始年	面 積
支笏湖セブンの森	北海道千歳市	2006年	16.26ha
千歳セブンの森	北海道千歳市幌加	2009年～ 2014年終了	1.2ha
えりも岬セブンの森	北海道幌泉郡えりも町	2013年	4.71ha
霧多布セブンの森	北海道厚岸郡浜中町	2018年	478.8ha
宮城セブンの森	宮城県大崎市鳴子温泉玉ノ木	2013年	300.0ha
仙台湾セブンの森	宮城県名取市下増田台	2014年～ 2019年終了	1.0ha
東松島セブンの森	宮城県東松島市浜市	2016年	1.0ha
相馬セブンの森	福島県相馬市磯部大洲	2016年	0.3ha
茨城セブンの森	茨城県水戸市見川町桜川緑地	2018年	6.0ha
栃木セブンの森	栃木県矢板市長井	2013年～ 2018年終了	2.0ha
千葉セブンの森	千葉県富津市	2012年～ 2016年終了	2.5ha
高尾セブンの森	東京都八王子市川町	2014年	26.5ha
福井セブンの森	福井県福井市小羽町「清水きららの森 ～おばやま自然公園～」	2017年	2.6ha
長野セブンの森Ⅰ	長野県埴科郡坂城町	2012年～ 2016年終了	250.0ha
長野セブンの森Ⅱ	長野県上水内郡信濃町 「やすらぎの森」	2017年	15.94ha
三重セブンの森	三重県津市美里町	2014年	2.0ha
滋賀セブンの森	滋賀県守山市今浜町 第2なぎさ公園	2019年～	—
大阪セブンの森	大阪府能勢郡能勢町「歌垣山」	2013年～ 2018年終了	3.7ha
阪南セブンの海の森	大阪府阪南市西鳥取漁港西海岸	2018年	—
広島セブンの森	広島県東広島市八本松町	2013年	3.6ha
福岡セブンの森	福岡県福岡市早良区曲洲	2015年	1.8ha
佐賀セブンの森	佐賀県三養基郡基山町	2014年	3.6ha
宮崎セブンの森	宮崎県日南市北郷町	2013年	3.0ha
合 計			1,126.51ha



森林の再生「佐賀セブンの森」



ホタル再生を目指す河畔林の保全
「茨城セブンの森」



海の再生活動「阪南セブンの海の森」

「セブンの森」づくり累計活動結果 (2006年度～2019年度)

活動回数	171回
加盟店と本部社員 参加人数	13,136名
一般参加人数	4,445名

生物多様性保全活動

霧多布湿原保全活動

豊かな生態系を抱く霧多布湿原を次世代に引き継ぐために、「小さな力が集まって、大切な自然遺産を残していく」ナショナルトラスト運動を推進しています。

北海道浜中町の認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストとパートナーシップ協定を結び、2002年より霧多布湿原の民有地などを取得し保全しています。

2018年より「霧多布セブンの森」も始動しました。

取得面積 478.8ha (2020年2月末日現在)



霧多布湿原はラムサール条約登録湿地
(撮影：ノーザンフォト 北村康春)

自然学校

「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を
自然から学ぶ」を基本理念に、大分県玖珠郡九重町と
東京都八王子市川町で自然学校を運営しています。



おやとこ田植え



夏の田んぼで生きものさがし



昆虫観察会(高尾の森自然学校)

くじゅう 九重ふるさと自然学校

九重ふるさと自然学校は、2007年に開校し、ラムサール条約に登録された「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」をはじめとする草原環境の保全や草原性チョウの保全活動、さらにお米も生きものも育む自然共生型の田んぼづくりや地域に根付く伝統野菜の普及・啓発を通して、人と自然が共生する里地里山の保護・保全活動に取り組んでいます。

「生きもの育む自然共生型田んぼづくり」は、国連生物多様性の10年日本委員会連携事業に認定されています。また、行政と連携し、各種の調査も実施しています。

高尾の森自然学校

「高尾の森自然学校」は、東京都が初めて民間団体と拠点施設を構えて取り組む協働事業です。2015年4月に開校し、東京都八王子市川町の約26.5haの都所有の森をフィールドに、貴重な森林を守り、育むことにより低炭素社会の実現に寄与します。

また、東京都レッドリストに掲載されている貴重な動植物の保護・保全活動を通して、生物多様性の重要性を体験し学ぶとともに、地域の自然、歴史、文化などを次世代に継承していく人材を育てます。

たくさんの方に参加していただけるように週末には、森林ボランティア体験、野鳥観察会、草木の観察会、クラフトワークショップなどのプログラムを開催しています。都心に近い立地を生かし、保育園、小学校、中学校、高校、企業の自然体験活動や自然観察会の受け入れも行っています。



バードウォッチングにて鳥の巣の観察



野草観察会



竹であそぼう